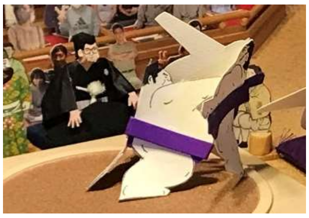
八日目を終えて、鬼ヶ嶽が１敗を守って単独トップに立った。これを、若ノ嶋、美空富士、千代鈴、若巨、龍不動の５人が２敗で追う展開となった。

若　巨○（引き落し）●玄武岩



龍不動○（押し倒し）●寶　蔵

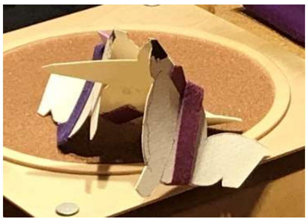
続く九日目、若ノ嶋は同じく２敗の千代鈴と対戦。過去の対戦成績は若ノ嶋の２勝だが力のある力士だけに侮れない。相撲は立合いに若ノ嶋の体を起こして左を差した千代鈴がのけ反る若ノ嶋をとどめを刺すかのように右からののど輪で倒した。２敗を守ったのは千代鈴。「やられた！」と悔しがる錦風親方。若ノ嶋はまさかの連敗で優勝争いから一歩後退した。

美空富士の九日目の対戦相手は大神楽。美空富士は大神楽に左を差され、粘るものの向正面に寄り切られて若ノ嶋同様、連敗となって優勝争いから一歩後退した。

ただ一人１敗の鬼ヶ嶽は白閃光と対戦。今場所初めて三役力士との対戦が組まれた。先場所は押し倒しで白閃光が勝っている。注目の一番は、先場所と同様に白閃がのど輪で攻めるが、鬼は簡単には倒されずに粘る。のど輪では倒せないとみた白閃はここから左を差して攻めるが鬼も必死に抵抗する。しかし、最後は白閃が下手投げで鬼を下した。鬼は２敗目を喫した。また、平幕の２敗勢の若巨は大綱嵐に寄り切りで敗れ、龍不動は伊達の富士に押し倒しで敗れ、ともに３敗となった。

鬼ヶ嶽●（下手投げ）○白閃光

大神楽○（寄り切り）●美空富



大綱嵐○（寄り切り）●若　巨

伊達富○（押し倒し）●龍不動

春ノ翔は八日目に千代鈴に敗れて負け越しとなり、関節炎で九日目から休場となった。さらに、佐賀ノ海は調子が戻らず、八日目に大神楽に敗れて負け越しとなり、続く九日目も剛勇山に敗れて七敗目を喫した。横綱獲りから一転して、来場所はカド番となる。

大神楽○（寄り切り）●佐賀海

佐賀海●（寄り切り）○剛勇山

九日目を終えて、千代鈴と鬼ヶ嶽が２敗で優勝争いの先頭に立ち、若ノ嶋、美空富士ら１３人が３敗で追う大混戦となった。

千代鈴と鬼ヶ嶽の直接の対戦が千秋楽に組まれると思われ、どちらかが２敗で優勝となるのか、それとも３敗祭りの決定戦へともつれ込むのか、果たしてどういう結末になるのか全く予想できない。

また、千代鈴がこのまま２敗で優勝すれば、当然ながら大関昇進という声も出てこようというものだ。今年最後となる千秋楽は１２月２５日に開催される予定だ。サンタからの贈り物を受け取るのは誰になるのか、千秋楽の開催が待たれる。

（錦風）

若剣、怪我に泣き引退

前頭十三枚目の若剣が８連敗、十両陥落が決定的になり、引退を表明した。小柄な身体を大きく使い、のど輪攻めからの押し倒しは強力な武器で活躍したが、度重なる手術でバランスを崩し、最近は全く自分の相撲が取れなかった。

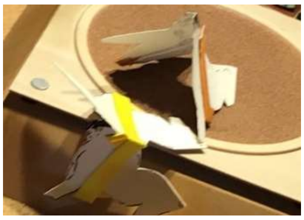
第１２０回初土俵、第１２８回新入幕で９勝を挙げ、新入幕で幕内最高優勝を果たした。最高位関脇、幕内優勝１回、殊勲賞、敢闘賞各１回、技能賞２回。幕内１４８勝１４１敗、通算１８２勝１５０敗。

若剣は実父剣山の麻縄部屋独立の際は桐壷に残ったが、今後は麻縄部屋の部屋付き親方として後進の育成を図るものと思われる。なお富士浪一門の年寄株は満杯なことから先場所の水晶嶽同様、当面は借株となる見込み。

十両は暫が単独1敗

九日目を終了し、暫が１敗を守り単独トップに立った。これを２敗で雪若丸、黒雲海、勝ノ川が追いかける展開に変わった。

暫　○（寄り切り）●櫻吹雪

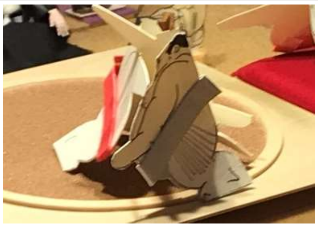


勝ノ川●（寄り切り）○　暫

ともに八日目に勝って１敗同士で迎えた九日目に暫と勝ノ川の対戦が組まれた。「暫を差すのは厳しいだろうなぁ」との勝間田親方の戦前の予想通り、立ち合いからすぐに左を差し勝った暫が速攻相撲で寄り切りに仕留めた。

これで暫が再び先頭に立ち、初優勝に向け前進した。残り２日の対戦相手は誰になるのか、まだ東西筆頭の雪若丸、西安との対戦を残していて、十日目は２敗の雪若丸との取組が有力とみられそうだ。

二枚目の黒雲海が連勝で２敗を死守し昇進に望みを繋いだ。九日目は連続優勝を狙う西神門と対戦。西神門が左を差しに来たところに絶妙なタイミングでのど輪をこじ入れた黒雲海が押し倒しで勝利。入幕への執念を垣間見せた一番となった。敗れた西神門は３敗目となりまだ優勝の可能性はあるものの、暫との星の差は２つに開いた。



黒雲海○（寄り切り）●初　戸

西神門●（押し倒し）○黒雲海

下位の残留争いも熾烈となっている。九日目の時点で陥落が決まったのは粲ノ城だけ。八枚目の電幕は連敗で１勝８敗となり、陥落を阻止するには残り２日勝つしかなくなった。同じく若虎影と夢ノ天も後がなく連勝が必須となる。